

自閉症スペクトラム障害児における発話と映像的身振りの 統合的理解

—身振りを指示する発話の効果—

(中間報告)

広島大学大学院教育学研究科 三宅英典

Comprehension of Integrated Speech and Iconic Gesture in Autism Spectrum Disorder: An Attempt of Using Directive Words

Graduate School of Education, Hiroshima University, MIYAKE, Hidenori

要約

話し手のメッセージを理解するうえで、私たちは、発話だけでなく身振りが伝達する情報も考慮している。先行研究では、定型発達児を中心に発話と映像的身振りの統合的理解が発達的に検討されており、発話に身振りを指示する指示語発話が加わることで、両者の統合的理解を促進することが明らかにされている。しかしながら、発達障害児が話者のメッセージ理解をするうえで、発話と映像的身振りをどのように考慮しているのかは明らかにされていない。そこで、本研究は、自閉症スペクトラム障害児を対象に、発話と映像的身振りの統合的理解の可能性について明らかにするとともに、指示語発話の統合的理解の促進効果を検討する。

【キー・ワード】 発話, 身振り, 統合的理解, 指示語, 自閉症スペクトラム障害児

Abstract

In communication, we understand information of integrated gesture-speech combination. Previous studies have shown five-year-old children with typical development can understand iconic gesture-speech combination, and the directive words enhance comprehension of iconic gesture-speech integrated. However, it is unclear how children with autism spectrum disorder understand gesture-speech combination. In this study, we examine how children with autism spectrum disorder understand iconic gesture-speech combination, and the directive words affect their comprehension of iconic gesture and speech.

【Key words】 Speech, Gesture, Comprehension, Directive Words, Autism Spectrum Disorder

問題と目的

コミュニケーション場面において、私たちはしばしば発話だけでなく、身振りも伴いながら、聞き手に対してメッセージを伝達しようとしている。そして、その際に伝達される身振りは、しばしば発話に含まれない独自の情報を含んでいる (McNeil, 1985; 1992)。特に、事物の形や動作などの具体的な情報を身振りで代替的に表現するものを映像的身振りと呼ぶ。実際に、Kelly et al. (2010) によって、聞き手は、話者のメッセージを理解するために、発話だけでなく映像的身振りも考慮に入れていることが明らかにされている。

発話と身振りがそれぞれ独自に持つ情報を組み合わせて、話者の意図するメッセージを理解することを統合的理解と呼ぶ。発話と身振りの統合的理解ができなければ、話し手と聞き手の間でミスコミュニケーションを引き起こすので、この能力がどのように発達するかを明らかにすることは、非常に重要である。Sekine et al. (in press) は、3歳児・4歳児・成人を対象に、発話と映像的身振りをビデオ映像で提示し、両者の情報を組み合わせたメッセージ理解ができるかどうかを検討した。その結果、統合的理解は5歳児から可能になることが明らかになった。ただし、発話と映像的身振りを幼児の前で直接実演した場合に限り、3歳児でも統合的理解が可能になることも示唆された。これに対して、三宅・杉村 (2015) は、ほとんどの発話と映像的身振りが幼児の日常生活において実演で提示されることを指摘し、実演の他に、幼児の発話と映像的身振りの統合的理解を促進する要因として、しばしば発話に付加される「これくらい」という指示語発話を取り上げて検討した。その結果、発話と映像的身振りの統合的理解は、指示語発話によって促進されることが明らかになった。

このように、定型発達児において発話と映像的身振りの統合的理解に関する知見が徐々に蓄積する一方で、発達障害児が発話と映像的身振りをどのように理解しているかという検討はなされていない。文部科学省 (2012) によると、通常の学級に約 6.5%の割合で発達障害児が在籍している可能性を示している。これは、児童期以前の幼児期においても、保育者が定型発達児と発達障害児の保育を包括的に行っている可能性を示唆している。したがって、保育者は、定型発達児だけではなく発達障害児においても、どのように発話と身振りを理解しているのかを把握しておく必要がある。

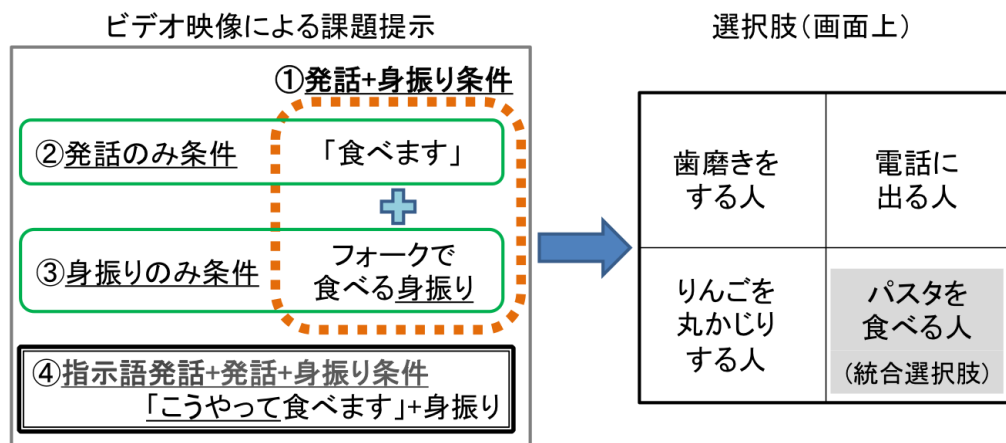
たとえば、自閉症スペクトラム障害児 (ASD 児) は、言語的なコミュニケーションにおいて、特に語用論的側面に困難を示していることが分かっており、ソーシャルスキルを測定する尺度にはしばしば非言語的コミュニケーションとして身振りの理解の有無が挙げられている (古池, 2009)。千住 (2012) は、ASD 者が、無意味な身振りの模倣や自発的な模倣において一貫して障害を示すものの、身振りの目的がはっきりした動作の模倣では、定型発達者と同様の能力を示すことを指摘しており、ASD 児も定型発達児と同様に身振りを理解する可能性を示唆している。また指示語発話を用いたメッセージに対する ASD 児の理解について、村上 (2013) は、「これは？」のような曖昧な指示語表現のみの発話を提示した場合、ASD 児の話者のメッセージ理解が定型発達児よりも困難であることを挙げている。しかし、ASD 児は、「そこ—ここ」のような相対的な意味を誤って使うことが挙げられるものの、指示語自体の理解が困難かどうかは明らかではない。また、村上 (2013) の課題は、指示語の指示対象が非明示的であり、聞き手にとって指示語が明示的に対象を指示している場合における

ASD 児の指示語理解は明らかではない。もし、指示語による理解の困難さが、指示対象の非明示的な曖昧性にあるのだとすれば、指示語が指示対象を明示的に指示していれば、ASD 児のメッセージ理解を促進するものとして機能するかもしれない。つまり、ASD 児では一見、身振りや指示語の理解が困難であると捉えられているものの、必ずしもこれらの使用や理解が出来ないわけではなく、適切に用いることで、ASD 児の発話と身振りの統合的理解を促進する可能性がある。

そこで、本研究は、ASD 児を対象に、発話と映像的身振りの統合的理解を検討するとともに、指示語発話の統合的理解の促進効果を検討する。

方 法

本研究では、Sekine et al. (in press) の課題を用いて、ASD 児を対象に実施する。具体的には、参加者の発話と身振りの統合的理解を測定するために、ビデオ映像課題を実施する。課題には、「書く・投げる・乗る・読む・飲む・食べる・開ける・登る」の8つの言葉を使用し、身振りはこれらの動的な特徴を表す。また、実験手続きと、発話と身振りの統合的理解の算出方法は図1に基づいて実施する。この際、「書く・投げる」は各条件の練習試行として使用する。発話と身振りが提示される条件において、参加児は指示語発話を付加する群と付加しない群に割り当てられる。また、言語性IQを統制するために新版K式発達検査の「言語・社会」分野を実施する。課題の試行数は、幼児1人あたり8試行(2試行が練習試行)×3条件で計24試行を実施する。課題の動作を提示する順番は固定し、課題の条件及び選択肢の配置はカウンターバランスをとる。課題を実施するうえで、必要であれば幼児の様子に応じて適宜休憩を取る。



発話と身振りの統合得点の算出方法

=①/④における統合選択肢の選択割合 - ②or ③の統合選択肢の選択割合の高い方

図1 実験手続きと統合得点の算出方法

分析方法

実験者の説明する指示対象と一致する選択をした場合に1点、その他を選択した場合は0点を与え、条件ごとに6試行の合計得点を算出して、図1のように発話と身振りの統合得点を算出する。また、発話と身振りの両方を提示する条件においては、指示語発話を付加する群と付加しない群の得点を比較検討する。

現在の進行状況

現在、Sekine et al. (in press) に基づいて、課題を作成しつつ、調査協力先と具体的な調査実施期間について検討を行っている。今後、調査時期が決まり次第、課題を実施する予定である。

引用文献

- Kelly, S., Ozyürek, Asli., & Maris, Eric. (2010). Two sides of the same coin: speech and gesture mutually interact to enhance comprehension. *Psychological Science*, 21, 260-267.
- 古池若葉. (2009). 子どもの語用論的側面に関するアセスメント-その現状と課題-. *跡見学園女子大学文学部紀要*, 42, 87-101.
- McNeill, D. (1985). So you think gestures are nonverbal?. *Psychological Review*, 92, 350-371.
- McNeill, D. (1992). *Hand and mind*. Chicago, IL: University of Chicago Press.
- 三宅英典・杉村伸一郎. (2015). 幼児における発話と身振りの統合的な理解-身振りを指示する発話の効果-. *日本発達心理学会第26回大会発表論文集*, P6-056.
- 文部科学省. (2012). 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について.
- 村上太郎. (2013). 幼児期における文脈推論能力と方略の発達の検討: 指示対象付与における語用論的解釈の発達と障害. *発達科学*, 27, 121-130.
- Sekine, K., Sowden, H., & Kita, S. (2015). The development of the ability to semantically integrate information in speech and iconic gesture in comprehension. *Cognitive Science*, 39, 1855-1880.
- 千住 淳. (2012). 社会的認知の自発性と自閉症スペクトラム障害. *基礎心理学研究*, 30 (2), 199-202.